

オーストラリア高配当株プレミアム (毎月分配型)

追加型投信／海外／株式

第34期末 (2015年7月17日)	
基準価額	8,051円
純資産総額	37,169百万円
第29期～第34期	
騰落率	+4.6%
分配金合計	900円

*騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

第29期 2015年2月17日決算 第30期 2015年3月17日決算
 第31期 2015年4月17日決算 第32期 2015年5月18日決算
 第33期 2015年6月17日決算 第34期 2015年7月17日決算
 作成対象期間 (2015年1月20日～2015年7月17日)

受益者の皆様へ

毎々、格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて「オーストラリア高配当株プレミアム(毎月分配型)」は、このたび、第29期から第34期の決算を行いました。

当ファンドは、主として円建て外国投資信託証券への投資を通じて、オーストラリア株式に投資するとともに通貨オプション戦略を行うことで、オプションプレミアムを確保し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

◆運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

◆当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法により交付することを定めております。運用報告書(全体版)については、以下の手順で閲覧およびダウンロードすることができます。

<閲覧方法>

下記ホームページアドレスにアクセス⇒「ファンド情報」を選択⇒「ファンド検索」を選択⇒「ファンド名の一部から探す」にファンド名を入力⇒該当のファンドを選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択

ホームページアドレス <http://www.daiwasbi.co.jp/>
 お問い合わせ先

デスクロージャー部 ☎0120-286104

受付時間は、毎営業日の午前9時から午後5時までです。

※お客様のお取引内容につきましては、ご購入された販売会社にお問い合わせください。

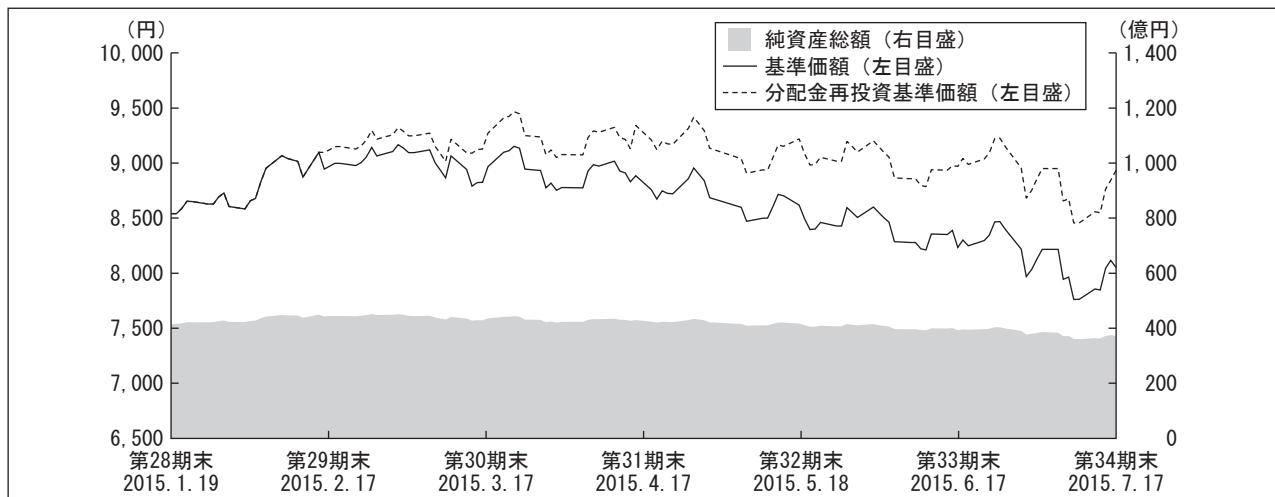


大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

運用経過

【基準価額等の推移】



*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

*分配金再投資基準価額は、作成期首の基準価額を基準に算出しております。

*分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

第29期首：8,541円

第34期末：8,051円（作成対象期間における期中分配金合計額 900円）

騰落率：+4.6%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

当ファンドは、Australia Equity Income Fund Premium Classへの投資を通じて、オーストラリア株式に投資するとともに通貨オプション戦略を行いました。

（上昇要因）

金融セクターで、投資銀行のマッコーリー・グループや総合金融グループのAMPがパフォーマンスにプラスに寄与したことが上昇要因となりました。

通貨オプション戦略（豪ドル買い、円売りの権利（オプション）の売り建て）により獲得したオプションプレミアムが上昇要因となりました。

（下落要因）

一般消費財・サービスセクターで、法律事務所のスレーター&ゴードンとテーマパークおよびヘルスクラブ事業などの運営会社のアーデント・レジャーがパフォーマンスにマイナスに作用したことが下落要因となりました。

【1万口当りの費用明細】

項目	第29期～第34期		項目の概要
	2015年1月20日～2015年7月17日		
	金額	比率	
信託報酬	74円	0.855%	信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率 作成期中の平均基準価額は8,626円です。
（投信会社）	(38)	(0.445)	ファンドの運用等の対価
（販売会社）	(34)	(0.397)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	(1)	(0.013)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
その他費用	0	0.002	その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0.002)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	74	0.858	

* 「比率」欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

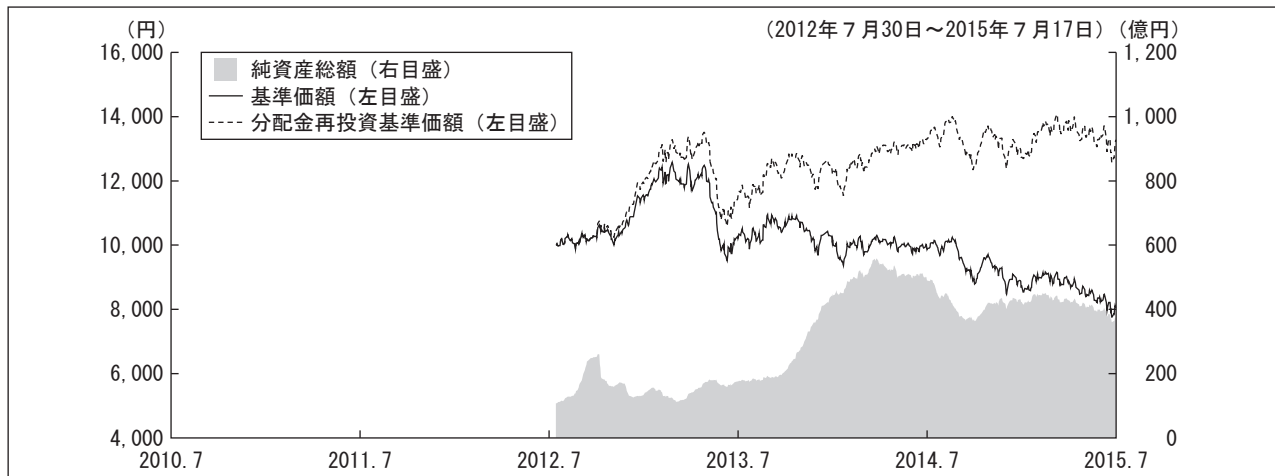
* 作成期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託受益証券が支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

* 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

* 各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

【最近5年間の基準価額等の推移】



*当ファンドの設定日（2012年7月30日）より表示しております。

*設定日の基準価額は設定価額を、純資産総額は当初設定元本を表示しております。

*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

*分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様ご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2012年7月30日 設定日	2013年7月17日 決算日	2014年7月17日 決算日	2015年7月17日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,208	9,865	8,051
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	1,350	1,800	1,800
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	15.3	15.3	△ 0.1
純資産総額 (百万円)	10,742	17,508	49,049	37,169

【投資環境】

当作成期、オーストラリア株式市場は上昇しました。セクター別では、資本財・サービス、ヘルスケア、公益の好パフォーマンスが目立った一方、生活必需品、エネルギー、情報技術などが出遅れました。

米国では、雇用情勢や住宅市場関連の指標に改善が目立つなど、景気回復が続いたため、米国での早期利上げ観測が強まり、米ドル高が進行しました。米国の経済情勢に影響を受けやすいとされるオーストラリアのヘルスケアセクターは、米国の景気が堅調に推移したことにより米ドル建ての収益が好調となり、市場平均を上回るパフォーマンスとなりました。資本財・サービスセクターでは、貨物輸送会社のトール・ホールディングスやアジアノなどのインフラ関連銘柄が海外企業による買収の発表を受け急騰したため、セクター全体でもアウトパフォームしました。一方、消費関連セクターはさえない展開が続きました。オーストラリアでの消費者マインドについては、代表的な指数であるウェストパック消費者信頼感指数が、2015年1月に93.2となった後、5月にはオーストラリア準備銀行（RBA）による政策金利の引き下げを受けて、102.4とピークを付け、7月には92.2とほぼ年初の水準に再び低下しました。生活必需品セクターもアンダーパフォームしました。小売セクターでは、ウールワースやウェスファーマーズなどのスーパーマーケットがアンダーパフォームしました。エネルギーセクターもアンダーパフォームしました。作成期中、原油価格が一時回復したものの、供給過剰の状況に変わりはなく、輸出が減少したことなどがエネルギー関連銘柄の重石となりました。

作成期中の豪ドル為替相場は対円で下落しました。作成期初は、原油を筆頭に商品相場が下落したことなどを背景に、資源国通貨の豪ドルは対円で軟調な推移が続きました。4月以降は商品相場が持ち直したことに伴い、豪ドルは対円で反発しました。しかし、作成期末にかけて、ギリシャ債務問題を巡る協議が難航したことや中国株の急落などを受けて、市場でリスク回避姿勢が強まったことなどから、豪ドルは対円で一時90円台を下回る水準まで下落しました。

国内短期金融市場では、2015年の年明け以降、欧州での量的緩和導入の観測や日本銀行のさらなる追加緩和の観測を材料に短期金利は大きく低下する局面も見られました。しかし、その後、短期金利は0%付近を安定的に推移する動きとなりました。5月以降は、欧米の長期金利の上昇に伴い、日本の長期金利も上昇する展開となりましたが、短期金利への影響は見られませんでした。

【ポートフォリオ】

■オーストラリア高配当株プレミアム（毎月分配型）

主要投資対象であるAustralia Equity Income Fund Premium Classを作成期を通じて高位に組み入れ、作成期末の投資信託証券組入比率は97.9%としました。

■Australia Equity Income Fund Premium Class

当作成期は、主に金融と公益セクターでの銘柄購入を中心に運用を行いました。

個別銘柄では、病院経営などを手がけるヘルスケア施設会社のラムゼー・ヘルスケアや総合金融グループのAMPなど、中長期的な成長軌道にあると見られる高配当銘柄を買い増しました。ラムゼー・ヘルスケアについては、オーストラリアや英国の市場での成長が期待されます。AMPについては、生命保険部門の収益回復が見込まれるのに加え、資産運用部門の収益の伸びも期待されます。また、ポートフォリオの配当利回りを高めるために、小売店舗向けリートのフェデレーション・センターズやニュージーランドの通信会社のスパーク・ニュージーランドを追加購入しました。

通貨オプションについては、豪ドル買い、円売りの権利（オプション）の売り建て想定元本が、保有豪ドル建て資産の時価総額に対して50%程度となるように維持し、効率的なオプションプレミアムの獲得に努めました。

■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

安全性と流動性を考慮し、短期の国債中心による運用を継続しました。年限に関しては、6ヵ月以内の短期の国債を中心とした運用を継続しました。

【ベンチマークとの差異】

当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

【分配金】

収益分配金は、分配可能額、基準価額水準等を勘案し、第29期～第34期の各期において150円とさせて頂きました。（1万口当り税込み）

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行います。

■分配原資の内訳

（1万口当り・税引前）

項目	第29期	第30期	第31期	第32期	第33期	第34期
	2015年1月20日 ～2015年2月17日	2015年2月18日 ～2015年3月17日	2015年3月18日 ～2015年4月17日	2015年4月18日 ～2015年5月18日	2015年5月19日 ～2015年6月17日	2015年6月18日 ～2015年7月17日
当期分配金 (円)	150	150	150	150	150	150
(対基準価額比率) (%)	1.65	1.68	1.66	1.71	1.79	1.83
当期の収益 (円)	131	122	120	119	120	121
当期の収益以外 (円)	19	28	30	30	29	29
翌期繰越分配対象額 (円)	1,455	1,428	1,406	1,377	1,349	1,321

※円未満を切り捨てしているため、「当期分配金」は「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計額と一致しない場合があります。

※当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

■オーストラリア高配当株プレミアム（毎月分配型）

引き続き、運用の基本方針に従い、主として円建て外国投資信託証券への投資を通じて、オーストラリア株式に投資するとともに通貨オプション戦略を行うことで、オプションプレミアムを確保し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

■Australia Equity Income Fund Premium Class

2015年下期については、ギリシャ債務問題を巡るリスクや米国での利上げ開始時期が不確実なこと、中国の経済成長がさらに減速するリスクなどが想定され、市場のボラティリティが一時的に高まる展開が予想されます。ただし、これらのリスクは概ね相場に織り込まれていると見られ、足元の調整局面でオーストラリア株のバリュエーションは妥当で魅力的な水準に近づいたと考えています。オーストラリア経済では、消費者マインドの弱さが続いていることや鉄鉱石価格の軟調などに注目しています。なお、鉄鉱石の需給については、中小鉱山の閉鎖よりも大手鉱業会社の増産ペースの方が速いと見ています。RBAによる追加利下げは一服したと見られる一方、米国での利上げ予想を背景に今後も豪ドルは対米ドルで軟調に推移すると見ています。このため、引き続き、豪ドル安の恩恵を受けやすい銘柄を選好していく方針です。また、中長期的な成長が見込まれ妥当な株価水準にある高配当銘柄や今後も買い材料が見込まれる割安銘柄を選好していきます。

通貨オプションについては、引き続き、豪ドル買い、円売りの権利（オプション）の売り建て想定元本が、豪ドル建て資産の時価総額に対して50%程度になるように維持し、効率的なオプションプレミアムの獲得を目指します。

■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

引き続き、安全性と流動性をもっとも重視したスタンスでの運用を継続し、短期の国債を中心とした運用を行っていきます。日本銀行による金融緩和政策が続くため、短期金利の上昇リスクは限定的と予想します。平均残存年限については、2～4ヵ月程度を目安に短めを基本とする方針です。

お知らせ

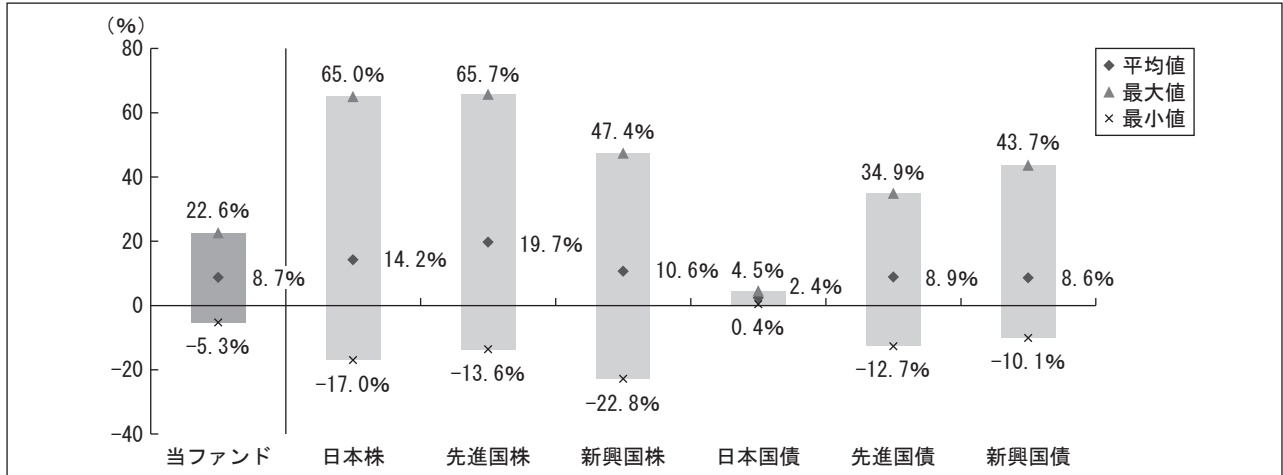
該当事項はございません。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2012年7月30日～2017年7月18日（約5年）	
運用方針	主として円建て外国投資信託証券への投資を通じて、オーストラリア株式に投資するとともに通貨オプション戦略を行うことで、オプションプレミアムを確保し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。なお、親投資信託であるキャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券へも投資を行います。	
主要投資対象	当ファンド	<ul style="list-style-type: none"> ・Australia Equity Income Fund Premium Class受益証券 ・キャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券
	Australia Equity Income Fund Premium Class	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアの株式 ・通貨オプション取引等の活用
	キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	本邦通貨建て公社債および短期金融商品等
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。 ・オーストラリア株式の配当利回り水準に着目し、相対的に配当利回りの高い銘柄の中から、個々の企業のファンダメンタルズを勘案して銘柄を選定します。 ・Australia Equity Income Fund Premium Classへの投資比率は、原則として高位を保ちます。 	
分配方針	<p>毎月17日（休業日の場合は、翌営業日）の決算日に、収益分配金額は経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益も含みます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。</p> <p>*分配金自動再投資型の場合、分配金は税金を差し引いた後自動的に無手数料で再投資されます。</p>	

【当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較】

当ファンド：2013年7月～2015年6月
 代表的な資産クラス：2010年7月～2015年6月



●上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

*当ファンドと代表的な資産クラスのデータの期間が異なりますので、ご注意ください。

*全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

*騰落率は直近前月末から6ヵ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

＜各資産クラスの指数について＞

資産クラス	指数名	権利者
日本株	TOPIX（配当込み）	株式会社東京証券取引所
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）	MSCI Inc.
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）	MSCI Inc.
日本国債	NOMURA-BPI国債	野村証券株式会社
先進国債	シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）	Citigroup Index LLC
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）	J.P.Morgan Securities LLC

(注) 上記指数に関する著作権等の知的財産権およびその他一切の権利は、各権利者に帰属します。各権利者は、当ファンドの運用に関して一切の責任を負いません。

当該投資信託のデータ

《当該投資信託の組入資産の内容》

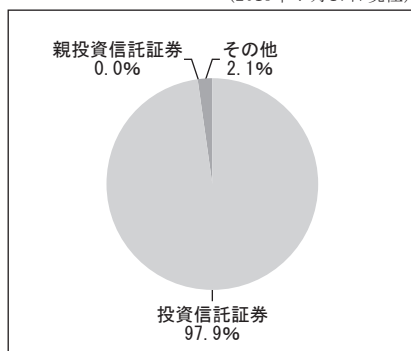
【組入ファンド】

	第34期末（2015年7月17日）
	組入比率
Australia Equity Income Fund Premium Class	97.9%
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	0.0%

*組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

【資産別配分】

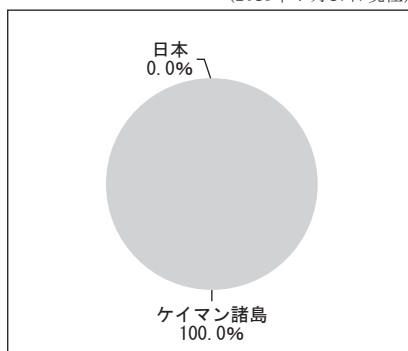
(2015年7月17日現在)



*純資産総額に対する評価額の割合

【国別配分】

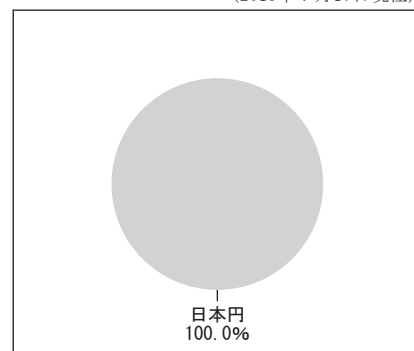
(2015年7月17日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【通貨別配分】

(2015年7月17日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【純資産等】

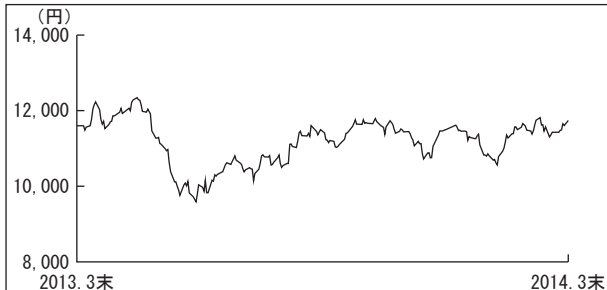
項目	第29期末	第30期末	第31期末	第32期末	第33期末	第34期末
	2015年2月17日	2015年3月17日	2015年4月17日	2015年5月18日	2015年6月17日	2015年7月17日
純資産総額	44,285,357,343円	42,742,693,439円	42,953,784,154円	41,681,280,883円	39,307,897,118円	37,169,253,790円
受益権総口数	49,500,713,803口	48,632,311,635口	48,351,700,125口	48,371,897,070口	47,737,973,606口	46,168,249,693口
1万口当り基準価額	8,946円	8,789円	8,884円	8,617円	8,234円	8,051円

*当作成期間中における追加設定元本額は11,321,961,750円、同解約元本額は13,704,944,756円です。

《組入ファンドの概要》

■Australia Equity Income Fund Premium Class

【基準価額の推移】



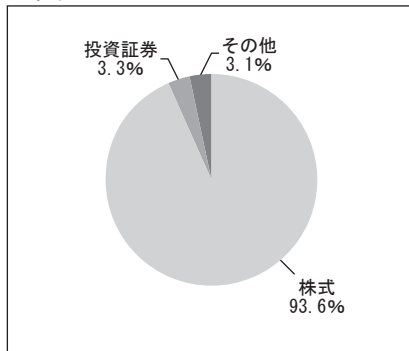
*上記グラフは、基準価額に分配金を分配時に再投資したものと表示しております。

Australia Equity Income Fund

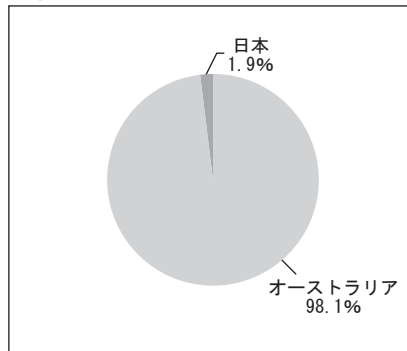
【1万口当りの費用明細】

費用については、開示されていないため、掲載しておりません。

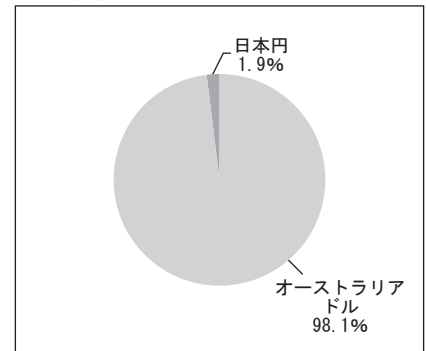
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



【組入上位銘柄】

銘柄名	業種名	比率
1 WESTPAC BANKING CORP	金融	9.4%
2 COMMONWEALTH BANK OF AUSTRAL	金融	8.9%
3 INSURANCE AUSTRALIA GROUP	金融	8.4%
4 BHP BILLITON LTD	素材	8.4%
5 NATIONAL AUSTRALIA BANK LTD	金融	7.7%
6 TELSTRA CORP LTD	電気通信サービス	7.3%
7 AUST AND NZ BANKING GROUP	金融	5.4%
8 MACQUARIE GROUP LTD	金融	4.1%
9 WESFARMERS LTD	生活必需品	3.5%
10 SUNCORP GROUP LTD	金融	3.3%

(組入銘柄数 56銘柄)

※ 資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位銘柄は2014年3月末現在のAustralia Equity Income Fundの純資産総額に対する比率です。

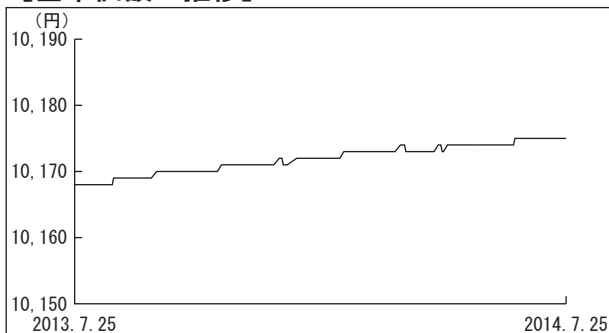
※ 資産別配分におけるその他には、キャッシュ等を含みます。

※ 当ファンドの運用報告書作成時点において、入手可能な直前計算期間のAustralia Equity Income Fundの情報を記載しております。

※ 詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

※ 上記はブラウン・ブラザーズ・ハリマンから入手したデータに基づき作成しております。

■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド 【基準価額の推移】



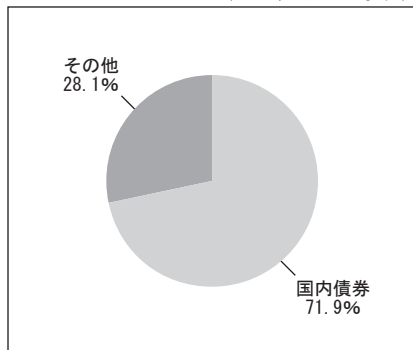
【1万口当りの費用明細】

(2013年7月26日～2014年7月25日)

当期中に発生した費用はありません。

【資産別配分】

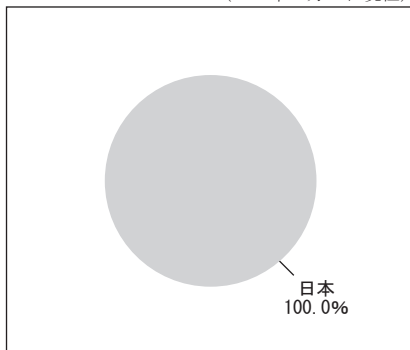
(2014年7月25日現在)



*純資産総額に対する評価額の割合

【国別配分】

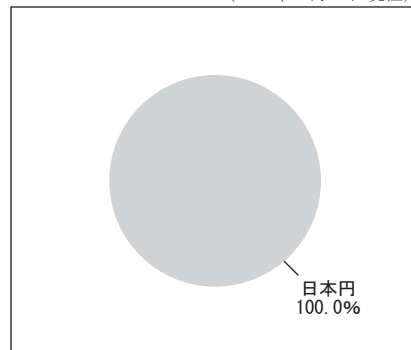
(2014年7月25日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【通貨別配分】

(2014年7月25日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【組入上位銘柄】

(2014年7月25日現在)

銘柄名	比率
1 455 国庫短期証券	17.6%
2 404 国庫短期証券	17.6%
3 465 国庫短期証券	13.4%
4 323 2年国債	12.5%
5 319 2年国債	8.9%
6 13 リコーリース	1.8%

(組入銘柄数 6銘柄)

*比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

※ 全銘柄に関する詳細な情報および直近の計算期間の運用経過等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

※ 基準価額の推移、1万口当りの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

※ 資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位銘柄は組入ファンドの直近の計算期間末日のものです。